

事例 No.	57	人口規模	10万人以上	地域ブロック	東北	事業タイプ		拠点整備		事業主体	NPO法人
事業名	子育て支援施設子育てランド運営補助事業										
実施地方公共団体名	山形市(山形県)										
特徴・ポイント	デパートが撤退したビルの空きスペースを活用し、親子が集える場を設けることで、子育て支援とともに中心商店街の活性化を図る。										
事業のねらいと内容	<p>【ねらい】 乳幼児及びその養育者に安全安心な遊びの場を提供するとともに、子育て情報や育児相談、一時預かりサービス等を提供することにより、子育てに対する不安や負担感の解消を図る。あわせて、中心市街地の店舗を利用して上記事業を行うことで、中心商店街の活性化に寄与する。</p> <p>【内容】 中心商店街活性化の一環として山形商工会議所が借り上げ、事業を行っている NANA-BEANS(ナナ・ビーンズ)の4～8階のうち、市が窓口となっている5階フロアの一部を利用して子育て支援施設「あ～べ」を運営する。</p> <p>・親子交流事業(親子広場の開放) ・一時預かり事業(乳幼児の一時預かり事業)</p> <p>・親子学習事業(各種講座、講習会等の実施) ・育児等相談事業(育成等に関する相談会の実施)</p>										
導入・実施の背景・経緯 (事業の必要性)	<p>山形市内では核家族化の進行などにより、在宅親子の子育て支援の必要性が強まっていたが、待機児童問題などを抱え、地域の在宅子育て支援のノウハウを蓄積する状況ではなかった。こうしたなか、中心商店街の空きビル再利用を検討する中での子育て支援施設の必要性と、活動実績をもつ団体(やまがた育児サークルランド)の方向性が合致したことから事業を開始することになった。</p> <p>平成16年度より国の「つどいの広場事業」として運営を行っている。</p>					導入・実施に際して苦労した点					
<p>本市の子育て支援施策の中で、子育てランド「あ～べ」の運営は利用者から最も評価の高い事業の一つとなっている。市内では、子育て支援センターの整備も進んでいるため、利用者は分散する傾向にあるが、「あ～べ」に関してはリピーターも大変多く、一定の利用者を確保している。</p>					<p>同施設に関しては、設立時点から行政と運営団体が「一緒に考えながら」事業を行うというスタイルで運営を行っていることから、特筆して苦労したところはないと考える。</p>						
事業の効果						実施にあたってのネックをどのように解決したか					
					<p>財源の確保 一時預かり事業以外は利用料を徴収していないため、ほとんどの経費を市の補助金でまかなっている。市の補助金は年々削減傾向にあるが、事務費・事業費の見直し等により対応している。</p>						
事業のアピールをどのように行なったか											
<p>運営法人によるホームページやパンフレットの作成により、随時情報を発信し利用を募るとともに、同法人は民間子育てサークルのネットワークづくりをもととの活動目標としていることから、こうしたサークルを通しての口コミも利用者の拡大に寄与していると考えられる。</p>											
概算事業費 (千円/年度) 平成18年度予算	<p>28,559千円 <内訳> 一般会計: 25,259千円 その他: 3,300千円(具体的名称: 次世代育成支援対策交付金)</p>					問い合わせ先		<p>所属部署: 山形市健康福祉部子育て推進課 TEL: 023-641-1212 FAX: 023-624-9921</p>			